

実践看護論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：4 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田幸子

科目担当者（職位・氏名）：助教・山田英子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：95

■ 授業概要

臨床場面で遭遇する予期せぬ急変の場面をとりあげ、その原因を予測し急変を回避するために必要な臨床判断のための知識・技術を教授する。また、臨床場面で実施する診療に伴う様々な援助技術について演習を通して観察点や留意事項などを教授する。

■ 到達目標

1. 急変徴候について説明できる。
2. 急変徴候を察知するための症状アセスメントの視点を説明できる。
3. 急変事例をもとに患者の状況を判断し、必要な看護を考えられる。

■ 教育内容

看護の統合と実践

■ キーワード

急変 徴候 フィジカルアセスメント 症状アセスメント 臨床判断 倫理的配慮

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	授業ガイダンス 急変を見抜くために	学習課題の説明 1. 急変とは 2. 必要なフィジカルアセスメント、症状アセスメント 3. 主な急変の徴候 【講義】	土田
2	基礎疾患のある人が日常生活で起こりうる急変とは何か	1. 排泄に伴う急変徴候 2. 入浴に伴う急変徴候 3. 鎮痛剤の使用に伴う急変徴候 【講義】	土田
3	治療中で起こりうる急変とは何か	4. 手術後の急変徴候 ①初回歩行時 ②全身麻酔後 ③発熱 5. 気管内吸引に伴う急変徴候	山田
4	救急看護の実際	1. 初期・第二次救急医療における看護 2. 第三次救急医療における看護 3. 災害時における看護 【講義】	ゲスト スピー カー
5	急変時患者のアセスメント 事例検討	事例を提示 【グループワーク】	共同
6	学習成果の発表	全体討議 【グループワーク】	
7	緊急時の基本処置と看護	1. 末梢血管と中心静脈路の確保 2. 心電図モニター 3. 胸腔ドレナージ 4. 胃洗浄 5. SBAR について 【演習】	共同
8			

*履修者の人数によっては授業内容の変更もある。

■ 履修条件

「病態生理学」「フィジカルアセスメント」「急性期看護技術論」を復習して臨むこと。

■ 成績評価方法

期末試験 50%、グループワークと演習への取り組み 50%を総合的に評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・初回のガイダンスで、2～4回の授業に関する事前学習課題を提示する（毎回 30 分程度）。5～6回のグループワークで用いる事例については、4回目の講義で配布し、各自で準備をしてグループワークに参加する（30分）。
毎回、授業後は復習を行う（30分）。
- ・希望者に対して、試験のフィードバックを行う。
希望者は、試験、事前にアポイントをとったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。

■ 教科書

指定はない。

■ 参考書・参考資料等

- ・野崎真奈美 他（2022）『成人看護技術』南江堂
 - ・山勢博彰他著（2024）『系統看護学講座－別巻 救急看護学 第7版』医学書院
- 必要時、提示する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業前：事前課題について内容をノートに要約すること。特に専門用語については理解できるように工夫する。（60分）
- ・授業後：ノート整理を行い内容が理解できているかどうかを確認する（60分）

■ 担当教員からのメッセージ

急変は生命の危機的状況につながるため臨床現場でみられる状況を想定し、これまでの知識を総動員して自らが考えられ、実際の場に役立つ看護を提供していきたい。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

土田：研究室 11、tsuchida★iwate-uhms.ac.jp、事前にメール等で連絡を入れてください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

■ 実務経験を活かした教育内容

臨床での看護師の経験を専門的な知識をもとに意味づけし、学生の理解が深められるように実践的な講義を目指し実施しています。さらには、卒業後のリアリティショックを少しでも軽減できるように実践的な授業を展開したいと考えています。